

輸送量8.5%増、全地域プラス

■IATA統計・6月

国際航空運送協会（IATA）がまとめた統計によると、2026年6月の貨物輸送量（貨物トンキロ=CTK）は前年同月比8.5%増となった（表①参照）。国際貨物に限ると、CTKは同9.6%増、供給量（有効貨物トンキロ=ACTK）は同4.9%増、貨物ロードファクターは同2.2ポイント増の52.1%だった。北米が成長をけん引したほか、全地域でCTKが前年を上回った。世界全体では需要の伸びが供給の伸びを上回り、中南米・カリブを除く全地域でも同様の傾向となった。

主要市場の国際貨物では、北米の航空会社が最も高い伸びを示し、CTKは17.1%増、ACTKは8.2%増だった。アジア太平洋はCTKが9.6%増、ACTKが6.4%増、欧州はCTKが7.2%増、ACTKが1.8%増と、いずれも堅調だった。中東はCTKが5.6%増、ACTKが2.7%増とプラスに転じた。ただ、前年同月は軍事衝突に伴う混乱で中東の航空会社の実績が特に弱かったため、比較対象の低さが押し上げ要因となった。

主要レーン別の貨物輸送量成長率（CTKベース）を見ると、アジアー北米（市場シェア23.5%）が14.7%増と最も高い伸びを示し、5カ月連続の増加となった。アジア域内（同7.3%）は7.2%増で32カ月連続増、欧州ーアジア（同21.5%）は7.1%増で40カ月連続増となった。一方、中東路線は引き続き落ち込み、欧州ー中東（同5.2%）は41.1%減、中東ーアジア（同7.4%）は4.1%減で、ともに4カ月連続のマイナスとなった。欧州ー北米（同13.5%）は横ばいだった。

IATAのウィリー・ウォルシュ事務総長（29日発表時点）は、6月の航空貨物需要について、北米が成長に最も大きく寄与し、全地域で前年を上回ったと説明した。高付加価値のテクノロジー関連貨物や緊急貨物に支えられ、需要の伸びは世界貿易の伸びも上回ったと指摘。そのうえで、「2026年下期に向けて楽観できる強い材料があ

表① IATA世界航空貨物実績									
市場シェア*	2026年6月実績（前年同月比）					2026年1～6月実績（前年同期比）			
	輸送量 (CTK)	供給量 (ACTK)	貨物LF (ポイント)	貨物LF (水準)		輸送量 (CTK)	供給量 (ACTK)	貨物LF (ポイント)	貨物LF (水準)
総合(国際+国内)	100.0	8.5	4.4	1.7	46.9	4.9	2.1	1.2	46.4
アフリカ	2.1	4.7	▲7.1	5.4	48.1	11.1	▲0.7	5.0	47.0
アジア太平洋	35.8	7.9	4.3	1.8	51.8	8.8	5.8	1.3	47.6
欧州	21.4	6.9	3.7	1.5	50.5	5.9	3.9	1.0	54.9
中南米・カリブ	2.9	3.5	9.8	▲2.1	33.9	▲0.1	4.8	▲1.7	35.0
中東	13.2	5.6	2.5	1.4	46.5	▲9.6	▲10.3	0.3	44.8
北米	24.6	13.1	6.2	2.5	40.7	6.1	2.0	1.6	41.4
国際貨物	87.9	9.6	4.9	2.2	52.1	5.2	2.4	1.4	51.9
アフリカ	2.1	4.7	▲6.9	5.4	49.1	11.1	▲0.5	5.1	48.4
アジア太平洋	32.1	9.6	6.4	1.7	56.9	9.6	7.2	1.2	54.2
欧州	21.0	7.2	1.8	2.7	54.0	6.2	3.6	1.4	57.4
中南米・カリブ	2.5	2.6	10.1	▲2.8	38.0	0.8	4.7	▲1.6	39.7
中東	13.2	5.6	2.7	1.3	46.8	▲9.6	▲10.4	0.4	45.2
北米	17.1	17.1	8.2	3.7	49.1	7.3	3.4	1.8	49.2

*市場シェアは2025年のCTKベース
CTK=貨物トンキロ
ACTK=有効貨物トンキロ
貨物LF=貨物ロードファクター

注) 地域別航空会社の貨物輸送実績増減。市場全体および地域別成長率は各航空会社の実績レポートおよび一部レポートの無いところは推測に基づく。なお、航空会社の輸送実績は登記上の国籍をもとに地域別に振り分けたものであり、該当する地域ごとの輸送規模を示すものではない

る」とした。

一方で、中東での戦闘継続や米国の関税政策を巡る不透明感をリスク要因に挙げた。ウォルシュ氏は、需要の伸びが世界全体と中南米・カリブを除く全地域で供給の伸びを上回っていると

しつつ、地政学的な不確実性や通商政策の影響には引き続き注意が必要との見方を示した。

事業環境をみると、世界貿易は前年同月比で5.2%増加した。6月のジェット燃料価格は前月比20%下落したが、前年同月比では45.8%高い水準にとどまった。製造業活動はやや鈍化したものの、航空貨物需要を支える水準を維持した。世界製造業生産

表② 主要レーンの2026年6月貨物輸送量成長率（CTKベース、市場規模順）

路線	需要伸び率（CTK）	備考	市場シェア
アジアー北米	14.7%	5カ月連続増	23.5%
欧州ーアジア	7.1%	40カ月連続増	21.5%
欧州ー北米	0.0%	—	13.5%
中東ーアジア	▲4.1%	4カ月連続減	7.4%
アジア域内	7.2%	32カ月連続増	7.3%
欧州ー中東	▲41.1%	4カ月連続減	5.2%
アフリカーアジア	0.9%	12カ月連続増	1.3%

※市場シェアは2025年通年のCTKベース

購買担当者景気指数（PMI）は前月から0.5ポイント低下して53.0となった。一方、新規輸出受注指数は49.4と、4カ月連続で景況判断の節目である50を下回った。航空貨物の成長は、世界的な輸出拡大というより、一部の貿易フローに支えられた格好だ。

6月実績の詳細は表①、表②の通り。